

御殿堰 大黒天便り



◆第六号◆

山形市中心市街地を流れる御殿堰。その豊かな水の流れを見守っているのが私「御殿堰大黒天」です。
「大黒天便り」では、わたし大黒天が御殿堰の歴史・季節の話題・生活の知恵など「なるほど!」と思っただけの内容をお伝えしていきたいと思っております。今回は第六号です。

◆明けましておめでと〜う!〜ぞいます◆

二〇一一年を迎えました。みなさまのようなお正月を迎えられましたか?
毎年一月二日に発表される『今年の漢字』、『今年の漢字』は、財団法人日本漢字能力検定協会が、毎年一月二二日の「漢字の日」に発表している、その年の日本や世界の世相を表した漢字一字のことです。

昨年二〇一〇年の漢字は『暑』。記録的な猛暑により熱中症にかかる人が続出。これに伴い野菜価格が高騰し、熊なども人里に出没。また地中の「暑い」中から作業員全員が生還したコピアポ鉱山落盤事故。1万度の突入温度をかくぐり帰還した「はやぶさ」なども反映されたのだそうです。

二〇一一年はどのような一文字に表される年になるのでしょうか。多くの方がたくさんの方の笑顔で過ごせる年になりますように。
本年も七日町御殿堰を宜しくお願い致します。

いんねがっす

季節毎の「ほう?」「いんねがっす」な話をさせていたただきたいと思えます。様々なウンチク・四方山話をネタに、日本文化・山形文化の素敵な所を皆さんで共有していきたいです。
(こちらのコーナーでは御殿堰にて皆様をお待ちしている各店舗御主人にご協力いただき作成していきます)

『成人式』

成人を祝う儀礼は古くからあり、男子には元服・禊祓、女子には裳着・結髪などがありました。
日本における今日の形態の成人式は、終戦間もない一九四六年一月二二日、埼玉県北足立郡蕨町(現蕨市)において実施された「青年祭」がルーツとなっているのだとか。敗戦により虚脱の状態にあった当時、次代を担う青年達に明るい希望を持たせ励ますため、当時の埼玉県蕨町青年団長が主催者となり青年祭を企画、会場となった蕨第一国民学校(現蕨市立蕨北小学校)の校庭にテントを張り、青年祭のプログラムとして行われました。この「成年式」が全国に広まり現在の成人式に。

蕨市の「青年祭」に影響を受けた国は、一九四八年に公布・施行された祝日法により、「大人になったことを自覚し、自ら生きぬこうとする青年を祝い励ます」という趣旨のもと、翌年から一月一五日を成人の日として制定。それ以降、殆どの地方で成人式はこの日に行われるようになりました。その後、一九九八年の祝日法改正(ハッピーマンデー法)に伴って、二〇〇〇年より成人の日は一月第二月曜日へ移動となりました。

成人式では、多くの方が着物を着用されます。着物離れが進む今日ですが、男性・女性共に、成人式で着物を着ることによって日本独自の衣服に袖を通してその着心地や模様について身近に感じていただいたり考えていただければ幸いです。

『お茶の伝来』

遣唐使が往来していた奈良・平安時代に、最澄・空海・永忠などの留学僧が、唐よりお茶の種子を持ち帰ったのが日本のお茶の始まりとされています。平安初期(八一五年)の『日本後記』には、「嵯峨天皇に大僧都永忠が近江の梵釈寺において茶を煎じて奉った」と記述されています。これが、日本茶の喫茶に関する最初の記述といわれています。このころのお茶は非常に貴重で、僧侶や貴族階級などの限られた人々だけが口にすることができたのだそうです。

鎌倉初期(一一九一年)に栄西禅師が宋から帰国する際、日本にお茶を持ち帰りました。栄西は、お茶の効用からお茶の製法などについて著した『喫茶養生記』(一一二四年)を書き上げました。これは、日本で最初の本格的なお茶関連の書といわれています。栄西は、深酒の癖のある將軍源実朝に本書を献上したと「吾妻鏡」に記してあります。

『寒ざらし蕎麦』

山形類食協同組合では、大寒の日に蕎麦の実を冷たい沢水に浸す「寒ざらし」の作業をしています。「寒ざらし」とは、蕎麦の実を冷水に浸した後に脱水し、寒風にさらして自然乾燥することによって、風味や甘みが増して舌触りが良くなることです。

山形にお住まいの方でしたら、そろそろ寒ざらしの季節だねえ」という季節を感じる言葉として馴染みがあるかと思えます。
蕎麦の実は約十日間沢水につけた後に水揚げし、約一カ月間、西蔵王高原で寒風にさらされるのだそうです。寒ざらし蕎麦は、桜の開花に合わせて四月中旬頃から山形市内の蕎麦屋で召し上がっていただけるようになります。

今年の春の「寒ざらし蕎麦」も楽しみですね。

山形あれこれ

③市神様

山形の風物詩である初市は、近郷近在から数万の人々が集まり、縁起物を買って帰るのが習わし。今も昔をしのぶ大きな年中行事の一つです。
この初市の中心をなすのが「市神様」。その御神体は安山岩の自然石で、羽州山形七福神のひとつ「恵比寿神」としても知られています。

江戸時代に発行された「東講商人鑑」にある当時の山形城下絵図にも十日町四辻にこの市神が描かれています。「この石は山形城下の町割をするときのかなめ石であったため、これを神聖して市神と崇む」とあり、山形の町にとって大切な石として注連縄を張り、毎年正月一〇日に市神を中心として立つ市を初市と呼びました。

明治六年(一八七三)、山形県庁からの布令に基づき「通行人の妨げになる」との理由から、山形の市神様は早速取り除かれました。掘り出した自然石の市神様は、当時の県庁(三の丸跡に所在)へ運ばれましたが、撤去作業を指揮した県の役人が即日事故死したため、人々は市神様の祟りだと語り合ったといえます。

市神様はその後、県庁構内に放置され手を触れる者さえいなかったそうです。しかしその時、県庁舎は旅籠町(現在の文翔館)に新築され移転が決定していました。
「県庁が移転すれば市神様だけが残ってしまふ」と、旅籠町の人々が相談し、県に願ひ出て承認を受け、これを雁島の湯殿山神社境内に移転建立したのです。

現在は湯殿山神社ともに昭和五八年に遷座し、商売繁盛の守り神として崇敬されています。

次号の発行は二月七日です。来月も皆様と紙面でお会いできるのを楽しみにしています。

漆師町 橋町 蔵町 湯殿山神社